




活動プログラム	No.02 生き物探し		
期待される効果	 いきもの植物	 環境学習	 創造性
プログラム概要	自然の家の周辺の生き物を観察し触れ合うことで、生き物のもつ魅力や面白さ不思議さを体感することができます。人間以外の生き物の大切さに気づくことで、自然に対するの考え方を直すきっかけとなります。		
対象	どなたでも	人数	クラス毎なら最大80名 グループごとなら最大120人
時期	通年	場所	自然の家周辺
金額	無料	大人の人数	15人に対して1人

準備物	団体ごと	救急セット、行動食
	服装 個人装備	長袖、長ズボン、帽子、水筒、タオル、軍手 カップ（上下セパレート）、リュック
美方高原で レンタル可能な物		虫めがね、聴診器、観察ケース、図鑑、長靴 クマ鈴（グループに1つ）

活動のタイムスケジュール（例）

時間	運営	安全上のポイント
事前学習	（どんな場所にどんな生き物が生息しているのか調べておくと効果的です）	
9:00	説明 説明、散策開始 スタッフ巡回	触ってはいけない動物、植物に関して注意喚起 グループごとで散策を行う場合は迷いや すいポイントに、スタッフを配置する 巡回しながらこまめな給水休憩を促す
11:15	集合、ふりかえり	人数確認
11:30	終了	

補足ポイント

- 1クラス毎に施設職員をインストラクターとして、配置することができます。（自然学校に限る）
- 事前の学習や事後のまとめ発表会などを実施することでプログラムの効果を深めることができます。
- グループ毎でもクラス毎での運営が可能です。時間の調整が可能なプログラムです（1時間～）
- グループ毎で活動する際は、施設外に出る道にスタッフを配置する必要があります。

活動 プログラム	No.02	生き物探し
-------------	-------	-------

予期されるリスク	リスクに対する対応
道迷いや遭難	地図の配布や分岐点などにスタッフを配置する。無線機や個人の携帯電話なども使うと、指導者間の連携がしやすい。
散策道の状態	散策道に通行に危険な箇所はないか、倒木や落石の恐れがある場所があれば、事前に処理もしくは、ルートの変更をする。
くまや野生動物との遭遇	クマ鈴を装備させ、単独での行動をさせない。 職員はクマよけスプレーを携帯しておく。
熱中症、脱水症状	塩分や十分な水分を準備するよう伝える。服装も調節を促し、日陰での休憩をとらせる。肌を露出させず、日焼け止めの使用を促す。
ハチ、ヘビとの遭遇	ハチやヘビとの遭遇した場合の対応を伝えておく。また散策道以外の山中には入らせない。散策道の付近のハチの巣の駆除。
天候不良	当日の天候や予測を確認し、著しく悪化する場合はプログラムの時間変更、もしくは中止する。
その他のケガ、体調不良	救急バックを携帯し、応急手当の準備をする。事前の体調調査、当日の確認を行い、バックアップ体制を整えておく。

事前点検・準備事項
散策コースは安全に通行できる状態か。
施設周辺の案内や地図は最新の状態のものを使用しているか。
天候の情報を確認して、適切な対応をしたか。
参加者の年齢、人数、スタッフ数、体調面などの情報は入っているか。
運営方法やタイムスケジュールは明確で共有されているか。
施設準備物は使用可能な状態か。または数は揃っているか。
参加者もしくは団体への持ち物の伝達は行ったか。

活動時のインストラクション（必須事項）
地図と案内をよく確認し、遭難に十分気をつけること。道ではないところには進まないこと。
必ずグループで行動すること。（クマとの遭遇を避け、遭難を防ぐため）
塩分、水分補給、を行い、こまめに休憩をとること。
衣服での体温調節を行うこと。
ハチ、ヘビと遭遇した場合は、刺激せず距離をとること。
有事の際は、グループ内で分かれ、最後に会ったスタッフを呼びに行くこと。必ず1人にならないこと。
30分以上他のグループやスタッフに会うことがなければ、その場から動かず、スタッフを待つこと。
足場を確認しながら進み、捻挫などに気をつけること。特に下りは十分に気をつけ、走らないこと。